

■（１６８）サッカー応援で見たラグビーW杯招致の苦悩

サッカー日本代表のW杯壮行試合を大画面で応援するイベントが岩手県釜石市であった。会場は震災直後、全国からの支援物資を保管・仕分けしていた大型テント。キックオフ前、親子ら４００人が代表ユニホーム姿で輪を作り、スタジアムの選手にエールを送った。

かけ声をかけたのは副市長。あいさつでは「釜石は『鉄と魚とラグビーのまち』。ラグビーとサッカーはルーツが同じと知っていますか」と会場に問いかけた。市は、２０１９年に国内で開催されるラグビーW杯の試合招致を目指している。７年連続日本一になった「新日鉄釜石」の元選手も誘致に動く。

だが、被災した市民の間で機運は盛り上がらない。仮設住宅暮らしが続き、生活再建の道筋もはっきりしない。スタジアム建設計画地が、震災でも最大級の犠牲を出した地区で、遺族感情を気遣う声も少なくない。副市長もあいさつの中で「ラグビーもこのぐらい盛り上がったらいいのですが……」と口にした。

「大変な時だけど、子どもたちに夢と釜石への誇りを持ってもらうため」という有志のがんばりも理解できる。復興がもっと順調だったなら……。 「たら」「れば」ばかりだ。

（山）